



新学期の始まりに取って代わったのは、物々しい「緊急事態宣言」でした。いつものごとく季節は過ぎるのに、ただ、人だけが留まることを強いられているような—そんな初めての感覚にとらわれながら、想いを巡らせた春でした。今いる場所で、今できることを。流れる日々に見過ごしていたものが、見えてきたりはしませんか。

\*\*\*\*\*

1・6期生を送り出し、今年度あらためて新1年生の担任となった長井麻美先生。前代未聞の休校による幕開けとなった新学期～教員たちの葛藤から史上初の試みが実現しました。

それどころか、担任やクラスの友達の名前も知らず、卒業後に自分が「横浜シュタイナー学園の1年生になった」という実感もありません。2年生以上の先生方がクラスのために苦心されている様子を見聞きするにつけて、それすら羨ましく思えることもたびたびありました。

1年生だけ一歩も踏み出せない焦りが、心の中に広がっていきました。

なんとか保護者の皆さんを通じて、まだ会ったことのない1年生たちと繋がりを持ってないかと考えました。毎週「クラス便り」を郵送し、週末には「電話家庭訪問（電話による情報交換）」をしました。お便りの中には、子どもたちに描いたマークの絵を送ったり、家族みんなで考える「なぞなぞ」を出したり、「自分で世話をしてごらん」と植物の種（何の種かは秘密）を同封したりと、学校やまだ見ぬ担任のことが身近に感じられるようにしてみました。

しかし、4月の末に教員会議で「5月も引き続き休校にする」と決まった時、（・・・もう、限界だ！）と感じました。これ以上、会ったことのない担任と児童との間で出来るやり取りは見つからないと思ったのでした。

保護者に電話で様子を聞くと、学校に通えない期間が長すぎて子どもが待ちくたびれている、自分の帰属がはっきりせず不安に思っているようだ、という声も聞こえてくるようになりました。

### 「家庭訪問実現！」

（なんとかして、子どもたちに会いたい。緊急事態宣言が解除されていなくても、自分一人で各家庭に赴き、子どもとの対面を果たしたい・・・）4月の半ばごろからぼんやりと抱いていた思いが、5月も休校と決まってから、はっきりとしたイメージとなって湧き上がってきました。教員会議は4月の初めからオンライン会議で続けられていますが、ある時、この考えを外に出す機会が与えられました。すると、まず「公共交通機関を利用する移動はよくないのではないか」という意見が出ました。（そうでしょうね。・・・やはり無理な相談だったか。）とうなだれていると、次に「ならば、自家用車を持っている教師が、長井先生を各家庭に送るのはどうか」という言葉が飛び出しました。（えっ？）と思っていると、「それなら出来そうだ。誰か、車を出せる人？」と話が進み、即座に5、6人の先生の手が拳がりました。あまりの嬉しさ有り難さに、涙もろいわたしの涙腺が弛んだのは言うまでもありません。

かくして、連休明けの平日を使つての「1年生家庭訪問キャラバン」が実現する運びとなりました。

## 「臨時休校中の1年生家庭訪問～祝福された5日間」



### 「入学式の延期」

今年は、3月7日の第2回目の新・転入生保護者会から様子が変わっていました。学園は、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐために3月2日から臨時休校となっていたため、子どもの集いを取りやめ、保護者は各家庭から一人だけの参加、また歓迎ランチ会も中止となりました。

春休みに入ると、教員会では通常通りとはいかなくても、予定されていた4月11日に入学式を執り行うべく検討を重ねていましたが、感染は拡大する一方。とうとう4月の授業、行事のすべてを中止とする決定を余儀なくされました。当然、入学式も延期となり、校舎に子どもたちの声が響かない、妙に静かな4月が訪れました。

### 「5月いっぱい休校決定」

新2～9年生のクラス担任は、自宅にいなければならない子どもたちのため、自習教材作りに日々追われるようになりました。クラスの状況に合わせた教材を作成し、専科の教材を担当の先生方と相談しながら準備し、郵送したり、手渡ししたりしていました。通常の授業を通した学びとは違うため、どの先生も知恵を絞り、いかに生き生きとした教材を作るか、どのように子どもたちの取り組みを把握するか、試行錯誤の繰り返しが始まりました。これは、大変な労力を伴うものだと傍で見ていて痛いほどよく分かりました。

しかし、新1年生は、まだ最初の授業を受けていません。

## 「祝福された5日間」

1年生の住所を調べると、5日で全家庭を回れることが分かりました。東京都内巡りの1日は東京在住の吉野先生の車で回り、東京在住のわたしが横浜市の学園に通うために、同じく吉野先生が4日間往復の送迎を買って出てくださいました。そして、学園から3,4家庭ずつ巡る運転を、柳本先生、野村直代先生、伊藤先生、横山先生が日替わりで引き受けてくださいました。

また、オイリュトミーを担当する猿谷先生と音楽を担当する原口先生からは一人ひとりに宛てたメッセージカードをいただきました。手仕事の野村先生は、「春祭りがなくなるかもしれないと思ったので」作っておいてくださったふわふわの白うさぎを届けてくださり、三品先生は「家で咲いた花をお祝いに」と毎日新鮮なミニブーケを作って持って来てくださいました。

16家庭すべての保護者から訪問に好意的なお返事をいただき、安堵しました。全員で顔を合わせられる日はまだ先だけれど、まずはお互いに知り合える。大切な「シュタイナー学校の最初の授業」をしっかりと届けることができる。心に、ふつふつと力が沸き起こりました。

5月11日月曜日。エポックノートに子どもたちのマークを貼り、季節のテーブルを即席で作るためのシルクの布とろうそく、グロッケン、校庭の花を挿した小さな花瓶を箱に詰めて、いざ、出発！というその時に、「あのお、おはようございます。」という聞き覚えのある男性の声が事務室の窓から聞こえてきました。窓の外を見ると、その声の主は学園の第1期卒業生でした！藤野の高等部を卒業後、友達と家具作りの工房を立ち上げ、試行錯誤の日々を送っている彼は、その日たまたま仕事が休みになったので、尋ねたい事があり学校に寄ってみたこのことでした。

「今から、わたしが今度受け持つ1年生に初めて会いに行くのよ。」と言うと、彼は、「うわぁ～、また9年間ですか。大変だけど・・・、頑張ってください！」と笑いながら励ましてくれました。

16期生にとって記念すべき日に、学園の1期生が祝福に来てくれたように思えて、喜びがこみあがりました。空は青く、太陽の陽射しが新緑を照らしています。今度こそ、いざ、出発！



## 「開校15周年、16期生の船出」

5月15日金曜日の午後。16人目の子どもとの授業を終え、わたしは無事帰途に着きました。ほどよい疲れが身を包みました。面白いことに、この5日間は2か月ぶりに毎晩熟睡しました。

各家庭で行ったことは、自己紹介をして、ブーケやうさぎを手渡し、教室の朝の会の短縮版を一挙手一投足教えながら行い、学校に通う意味についての話をし、1年生の最初のフォルメン授業をエポックノートの1ページ目に描くところまで行う、という3～40分間の授業です。しかし、一人ひとりとの出会いは、まさに「一期一会」と言えるもので、「こうでした」と一般化した報告にすることが出来ないほどそれぞれ違っていました。

そこで、今回の家庭訪問・1対1の最初の授業全体を通してわたしが感じたことを書きます。

今回このような社会状況の下で1対1の授業を行ったことで、シュタイナー学校入学最初の一日のあり方に今までは違う可能性が見えてきたような気がします。わたしが初めて横浜シュタイナー学園の担任となり1期生が15名でスタートしたのは2005年。それから15年経った今、子どもたちを取り巻く環境は変化し、子どもたちのありようもずいぶん変化しました。一言で言えば、社会の価値観の多様化に伴うかのように、子どもたち一人ひとりもより個性ようになってきていると思います。そのように考えると、一斉授業を開始する前に、担任が子どもと個別に出会い、知り合っておき、もう少し先まで・・・つまり、なぜ学校に通うのかということや最初のフォルメンの描き方を教えておくことは、今後一斉授業で学びを進めていくために得策だったかもしれないと思いました。子どもは（今日、自分だけのためにいてくれるこの人が、自分の担任だ。）と安心して時間を過ごすことができました。教師も目の前の子どもが知っていることから話題を引き出し、その子にとって身近な話を発展させていくことで、心の中に最初の授業の大事な部分をしっかりと根付かせることができましたように感じます。それを確信したのは、毎回、授業を終えた後で、どの子も見せてくれた目の輝きでした。

新型コロナウイルス感染症による世情の変化が、今まで全く思いつかなかった「シュタイナー学校の最初の授業の方法」を導き出しました。世の中が安定に向かえば、入学式はまた元のような形に戻ることでしょう。しかし、奇しくも開校15周年の今年、16期生の船出に際して試みるように与えられた課題から学んだことを、今後も何らかの形で生かしていけるとよいと思います。

1年生が学園で全員揃って入学式に臨める晴れの日を待ちながら、家で続きのフォルメンの課題に取り組んでいる1年生一人ひとりの顔を思い浮かべることのできる幸せを今、噛みしめています。

最後に、ご協力くださった保護者の方々、先生方、見守ってくださった皆さんに、心より感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。

(新1年生担任 長井麻美)

史上初となった「個別入学式」と世界中のシュタイナー学校新1年生全員が受ける「最初の授業」。  
その様子を、2人の新1年生の保護者が寄せてくれました。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

## 「個別入学式キャラバン」初めての個人授業

待ちに待った横浜シュタイナー学園での学びに期待を胸にした4月の頭、政府が緊急事態宣言を出したことにより、外出自粛となりました。従って入学式も延期となり、そのまま休校になりました。4月から学校へ通えることを楽しみにしていた娘はとても残念に思い、私も娘もこの先どのように過ごしたら良いのだろうと不安を覚えました。

しかし不安の中私達の支えになったのが、毎週担任の長井先生から送られてくる「クラス便り」と電話家庭訪問でした。お電話で先生は娘の様子を伺って下さり、家での過ごし方等を教えて頂きました。またあらゆる心配事や思いをお話させて頂き、電話を通して先生をととても近くに感じることができ嬉しく思いました。また同じく、学園の保護者の皆さんと先生方の思いを綴った「学園だより」がとても励みになり、毎週楽しみに読ませて頂きました。学園に属していながらそれを感じることができない寂しさの中、保護者の皆さんの温かいメッセージを学園だよりで感じることができ、また手仕事ができるキットを送って下さりと、本当に暖かく迎えられていることを感じ心温まりました。例えば学校に通えなくても横浜シュタイナー学園に属しているのだという気持ちを持つことができてとても嬉しく思いました。

4月最後の「クラス便り」にて長井先生からの思いがけないお知らせを頂きました。それは「個別入学式キャラバン」と題され、新1年生の家庭へ車で来て下さり、各家庭で先生と子どもが初めて対面し、最初の授業を行うという、先生曰くおそらく世界初の企画の報告でした。4月までは何とか娘も我慢して待っていたものの、後1か月延長するとの政府からの宣言に、もう1か月先生やお友達との対面も宿題も無い状態を続けることにさすがに自信を持てなくなっていた所のお知らせで「光」が見えた瞬間でした。

先生の素晴らしい企画に、親としてこの上ない喜びと期待を感じ、やっと前へ進めることに安堵しました。娘は先生がお家に来て、初めての授業をして頂けることに想像以上に喜び興奮しました。先生はどんな先生だろう、授業はどんなのかな～、蜜蝋クレヨンはどうのように使うのだろうと、あれこれ思いながら心待ちにしました。

先生がお家へ来て下さる日、久しぶりに活気づいた朝を迎え、娘も学校へ通う時間通りに事をなして先生を待ちました。先生が我が家へ到着すると、娘は嬉しさの中に緊張が垣間見えますが先生にご挨拶をし、家に入る前に先生から「クラス便り」と一緒に送って頂いたひまわりの種と秘密の種を植えて育てて出た芽の鉢を先生に見せてお話を

さていよいよ待ちに待った初めての授業です。まず、先生が持って来て下さったキャンドル、グローツェン等をテーブルにセットしミニ黒板を台に立てかけミニ教室を作ってくださいました。キャンドルをともし家の中に蜜蝋の香りが漂いました。そして、手仕事の先生のお家で咲いたお花のブーケと手作りのうさぎのボンボンを頂き、ささやかな入学式をして下さいました。

授業が始まりました。まず朝のお祈りの詩の言葉を先生から聞きました。私は授業をしている娘と先生から見えない程度で場所で見えていたのですが、先生の詩の言葉が始まった瞬間、先生の声のエネルギーを身体で感じました。瞬時に目を閉じ、耳を傾けて意味を聞くというより「言霊の響き」を心で感じることをしてみました。するととても厳かな気持ちになりました。このような響きを毎日先生から聞いて暗唱して一日が始まるのは心が整えられて素晴らしいなと思いました。学校が始まり、娘から詩を学び一緒に暗唱できる日を楽しみにしています。次に朝のご挨拶です。グローツェンの一音をならしその音で「おはようございます〇〇〇」と娘の名前を呼び、娘もその音で先生へご挨拶を返しました。音の中に挨拶の言葉を入れて先生と向き合うことは、詩と同様心を整えて授業へ進めるように感じました。

初めての授業は「フォルメン」を描くことでした。まず家の中にある直線と丸の線がどこにあるか先生と一緒に探しました。そして世の中にあるものは全てこの直線と丸の線でできているお話を聞きました。シュタイナーの学びはこの世界にあるもの全てがつながっていることを学ばせてくれます。直線と丸の線を丁寧に学んで行くと、字はもちろんあらゆる所につながっていることを発見して行くと思います。本当に丁寧に一つ一つ学んで行くのだということを見させて頂きました。

そしてクレヨンの使い方の説明後、先生が黒板に直線、丸の線を描きました。娘はフォルメンノートに描く前に何回か指で線を描く練習をして赤と空色のスティッククレヨンでノートに描きました。線を描いた後、線の周りを黄色のブロッククレヨンで塗りました。先生が帰られた後、娘からノートを見せてもらった時、この線がただの線ではなく「アート」として見えてしまいました。先生がおっしゃられていた全てのものは直線、丸の線から出来ているだけにあり、その原型だけにしてもただの線ではなくアートもしくは絵のように捉えられました。感慨深いものでした。

授業中は親の私も集中し、そしてとても興味深く一緒に学ぶ体験をさせてもらうことができました。また、ずっと集中をして先生の言葉に耳を傾けて授業に取り組む娘の姿も見ることもでき、これまた貴重な体験だと感じました。普段ですと授業を見ることは出来ないのですが、学校が休校で行けないことはとても残念でしたが、このように個人で先生から初めての授業を受けられ、また親もその授業を参観することができたことに感謝しています。また、最初の授業だからこそ個人でとても丁寧に指導を受けられたことは生徒にとっても良いのではと感じました。世界初の試みの個人授業、新1年生にとっては思ってもいなかった貴重な体験のプレゼントだったのではないかと思います。

先生が帰られた後、私達は貴重な体験をしました。娘はとても静かにしていました。特に話すこともなくまるで今先生から受けた全てを身体と心に吸収しているかのように見えました。したがって、私もあえて言葉をかけることなくそっと様子を見ていました。すると、娘は急に私の所へ来ては何を言うのではなく、涙をぼろぼろと流し始めました。私は先生とお別れをして悲しくて涙を流しているのではと思いましたが、「どうしたの?」と聞きました。すると娘は「感動したの」と一言言葉を発しました。感性の高い子どもとは解っていたもの、授業を受けてこのような表現をしたことに驚きました。続けて「何に感動したの?」と聞くと、娘は「すべてにだよ」と言いました。私は鳥肌が立ちました。

娘曰く先生にやっと会えたこと、授業ができたこと、そして心に響く授業の内容を受けられたこと、そして沢山学べたこと全てに感動をし、感極まり涙したそうです。声に出さない優しい涙を流して感動している娘の姿に私も感動してしまいました。そして、親子そろってシュタイナー教育を受けたい、学びたいと待ちわびていた答えを体験した瞬間でした。何より、娘の感動を通して教育の「美しさ」を見ることができました。

シュタイナー教育は「魂に響く」教育だと思っています。魂に響くからこそ身体と心全身で感動する体験ができるのだと思います。そして、心に響いたことは今後の土台となり一生忘れないと信じています。今世界が不安定な中、何を頼りにして行けば良いか解らなくなっている時代です。その中で未来を担って行く子どもたちの未来に「光」を見出してくれる教育がシュタイナー教育だと思っています。そして、未来を創って行く子どもたちに明るい未来があることを学んで行って欲しいと願っています。

今回の個人授業を通して、言葉ではなく体験を通してシュタイナー教育の素晴らしさを感じられたことに親として感謝しています。これから娘と共にシュタイナー教育を通して成長して行けることをとても楽しみにしています。

(新1年生保護者 黒木佐知子)



## 「個別入学式を迎えて」

クラス便りの『個別入学式キャラバン』という言葉に、「さすがフロンティア!」と思わず声を出してしまいました。新1年生担任の長井先生は、横浜シュタイナー学園の1期生の担任をされたと伺っていましたので、熱い志をお持ちなんだろうと思っていました。入学前から前代未聞の状況の中で、こんなにも新1年生のことを考えて下さっていることに、感謝の気持ちがこみ上げました。

早速、夫にも「担任の先生が家にいらして、個別に最初の授業をして下さることは、きっと史上初の試みだから、ぜひ立ち会った方がいいよ!」と、ステイホームを勧め、一緒に掃除をし、先生がいらっしやる日をわくわくした気持ちで待っていました。

家庭訪問前の自粛生活を振り返ってみると、状況の変化に不安を感じることもありましたが、のんびりと好きなことをして過ごせるということもあって、嬉しそうにしている息子の様子を見て、今は先ず親子の時間を楽しもう!と決め、様々なことをしてきました。部屋は片付き、普段忙しくて組み立てられなかった庭の風車が完成し、散歩して出会ったおたまじゃくしやザリガニなどの水槽が増えました。工作や料理、送っていただいた積み木作りや染物など、手で何かを作る時間も穏やかに楽しむことができました。

そんな日々の中、気になり始めたことが・・・それは、時々息子が「まだ小学生じゃないから～」と言って片付けや日課をサボろうとしている様子でした。入学式の延期をいいことに、小学生になった自覚はなく、まだ許されるポジションを取ろうとしている、。。。これは困ったな?!とと思っていたところの『入学式キャラバン』のお便りでしたので、親としても心弾まずにはられませんでした。

そんな風に迎えた個別入学式の当日。実際に長井先生と対面してドキドキもじもじしている息子。初めてのことに慎重な性格の息子を見守る親心とともに、

歴史的瞬間を見届けたい気持ちで存在感を強めに放ってしまっている両親が気になるのは無理もなく、途中から「ご両親は別室で」と長井先生に促され、私たちはリビングの外で待つことになりました。かすかに漏れ聞こえてくる長井先生と息子の声に耳を澄ませていると笑い声も聞こえて、家のリビングでありながら温かな教室のような雰囲気が伝わってきて、心底ほっとしました。

先生方がお帰りになってから、今日先生がお話して下さったことを得意げに聞かせてくれる息子の姿に、凜とした、学びを始める小学一年生の佇まいを見ることができました。

その後、息子は「まだ小学生じゃないから～」とは言わなくなり、「横浜シュタイナーではね～」という言い方に変わり、どんな学びが待っているのか本当に楽しみにしているようです。長井先生が、家に来て下さってまで伝えたかったことをしっかりと受け止めている様子に、親として心から嬉しい気持ちでいます。

今回の家庭訪問を実現させて下さった先生方に、感謝してもしきれない思いです。どうもありがとうございました。

世界中で感染が広がり、人と距離をとらなければならなくなってしまった状況の中で、自ずと、人と出会い関係を育むことの大切さと、同じ空間を共有し分かち合うことの幸せを、改めて深く感じています。

通学が始まり、みなさんにお会いできることを親子で心から楽しみにしています。

どうぞよろしく願いいたします。

(新1年生保護者 小林彩乃)

## 【休校中の在学児童の様子報告】

横浜シュタイナー学園では、2月28日の登校を最後に臨時休校が決まり、そのまま春休みに入りました。新学期開けての登校もまだ実現されていない5月初旬、「お家の学校」の報告が在校生保護者から届きました。

\*\*\*\*\*

### お家の学校

新学期が始まって早3週間。毎日の学習リズムにも慣れてきました。

今回は休校中の家庭学習の様子を書いてみたいと思います。

3年生は新学期最初の週の始めに、担任の末永先生が家庭学習用の教材を送って下さいました。先生のお話では、月～金、9時～12時は学校と同じ学びの時間として過ごして下さいとのこと。内容は、朝の会、リズム、エポック学習、そして練習の時間。学校での授業の流れと同じ、つまり、保護者が担任代行をするということ…。

正直に申しますと私には2つ難点がありました。

普段子どもが学校にいる時間に働いているため、どうしたものかと悩みました。また、生のエポック授業を見たのは昨年度のお誕生日授業参観の1度だけ。朝の会やリズムと言われても、言葉も動きも覚えているはずありません。そんな保護者がどうやってエポック授業を家庭で実現するのでしょうか…。

先行きの見えない社会情勢に気持ちが動揺していたところに、さらに心配事が増える思いでしたが、送られてきた袋を開けてみて、そんな不安は一気にどこかへ吹き飛んでしまいました！



中に入っていたのは、保護者向けにお手紙と、1日ごとに子どもに渡す教材や色鉛筆（2年生では2色しか使っておらず、これから1色ずつ増えていくのです）、子ども用には家庭学習用のワークブックと、新色の色鉛筆1本が入った色鉛筆ケース（本人が手仕事で作成、家こびとさん仕上げ後の初使用！）、仕掛かりの手仕事

作品入り手仕事袋、漢字用の新しいノート、みつろう粘土。ワークブックには鮮やかな水彩作品が表紙に付けられています。

これを見て子どもも大興奮！早く見たい早くやろうと大騒ぎになりましたが、受け取りが夜だったので、明日のお楽しみに。

夜のうちに予習せねばと内容を確認。進め方を書いてくださっていたので私にもできそうな気がしてきました。仕事は午後にはずらす交渉を決意して、午前の時間を確保することにしました。



翌朝いよいよ学習開始です。まず朝の会から。朝の歌、空間を感じる動き、ごあいさつ、朝の詩。言葉や詩は書いてありますが、動きやメロディは全部子どもに教えてもらいます。

初日は朝の歌のメロディが出てきませんでした。翌日先生がお電話くださったときに聞いてみると、「長いお休みだったので奥の方にしまわれているんですね。だんだん思い出しますよ」とのこと。確かにその翌日には難なくするっと出てきました。意識していなくてもちゃんとしまわれているんですね。

続いてリズムの時間。「きつねが一匹歩いてた」は2月までしていた冬バージョンを春バージョンの詩に替えて動きます。リズムに合わせて手足を叩いたり、体をひねって肘と膝を合わせたりする動きは、眠っている身体と頭を目覚めさせ、学びのための準備が整っていくようです。

引き続き、手足でリズムを取りながら九九の暗唱、ボールを投げ渡ししながらの暗算。こうしたことも身体を動かしながらリズムよく行います。

そしてお待ちかねのエポック学習。

ワークブックの中はクレヨンや色鉛筆で鮮やかに描かれ、中表紙には子どもの名前が。毎日日付が書いてあるので、翌日の分が見えないようクリップで留めておきました。

「きょう学ぶこと」を一緒に音読して、何をするかを確認します。読み書きの順序は、書く → 自分で書いたものを読み、耳で聞いて味わう → 活字を読む、なのだそうで、3年生は課題を音読することも学びの一環です。

この週は、2年生の最後に予定されていた聖人伝で、前日のお話を思い出し、音読し、漢字を学び、お話の続きを聞く、という流れで進んでいきました。

学習の終わりにも言葉を唱え、ありがとうございますでエポック学習を締めくくります。

一息ついてから（と言っても本人は早く次をやりたくて続けてしまうのですが）、練習の時間に入ります。

この週のテーマは手仕事。みつろう粘土で鳥の巣と雛を作ったり、卵の殻で飾りを作ったり。3日目4日目は休校前の手仕事授業の続きで棒針編み。私には教えられないので大丈夫かしらと思っていたら、手仕事専科の野村先生から直筆のお手紙が。本人が分かる絵と言葉で書かれており、編み方もちゃんと覚えていて、難なく進めていました。

毎日日記を書き、週の終わりに今週のお手伝いも書いたら、お家からのコメントを書いて返送。週末にまた翌週の教材を送ってくださいます。

シュタイナー学校では教科書を使いませんから、学習内容が文字で書かれていること自体、異例のことではないでしょうか。それでも今の状況下で学園らしく学びを続けられるようにと、これだけの内容を（それも無駄がなく、毎日楽しめる内容を）考え、工夫し、準備をしてくださり、先生方には本当に感謝しています。

子ども自身が喜んで積極的に取り組んでいることもありがたいですが、毎日の学習の流れを私も一緒に体験することで、毎日決まった時間に決まったことをする、あらゆる意味でのリズムをととても大切にするこの教育によって、私自身も気持ちが晴れて救われている気がします。

今月も休校が続くのは残念ですが、今度はどんな課題だろう、と子ども以上に楽しみにしております。

(3年生保護者 本橋麻衣子)



## どんなときでも、かぞくの時間が温かいものでありますように！ ～横浜シュタイナー学園オンラインストア ことはじめ～

『こどもといっしょのくらしかた』というイベントを、神奈川県にあるシュタイナー幼稚園の先生方にお手伝いいただきながら毎年夏に行っています。そもそも、このイベントを立ち上げた理由は、妊婦さんも含め、お子さんが小さな時にシュタイナー教育と出合える機会を少しでも広げたいと思ったからです。イベントのコアメンバーたちの子どもは、もう随分大きくなっていましたが、“子どもには成長する段階があるのだから、急がせた成長をさせてはいけない”ということに心から気づけることが、その後の子育てにどれだけ大切だったかということ強く感じている人ばかりでした。親子関係においては、シュタイナー教育との出会いは光だったと、今も昔も思います。

さて、そしてコロナ禍がやってきました。メンバーの一人と、「子どもと日がな一日、家の中でどう過ごしているか、困っている人が多いみたいだね」という話になりました。『こどもといっしょのくらしかた』公式facebookでは、早々とメッセージを出した、社)日本シュタイナー幼児教育協会のHPをシェアしたりはしましたが、“今”私たちが、私たちとしてできることは何かあるのだろうか？という想いが募ります。少し前まで、同じように小さな子どもを抱えるお母さんだった私たちが、今小さな子に奮闘しているお母さんにメッセージを届けられたらいいのになあと思いました。

そして、傍らを見ると、もう背丈も十分に抜いていった息子が料理をしたり、木工をしたり、刺繍をしたりしていました。それはどうやら我が家だけの話ではなく、学園の多くの家庭がそんなような様子でした。親や先生の模倣から始まった彼らの手仕事は、年齢と共に、自分のものへと変化するようです。学内での親の学びの中で知った「手を動かすことは、自分の人生を自分で作っていけることだ」という言葉が浮かびます。

その時に思いました！小さな子を抱えるおうちに、“今”このあまりある時間を、親子の手仕事に使ってもらえたら、嬉しくて楽しい親子の時間を感じてもらえるんじゃない！？これは、『こどもといっしょのくらしかた』だね！！と…私たちは喜んだわけです。

親子で一緒にやる手仕事のとりかかりとして、私たちが普段ワークショップで展開しているものをキット化し販売ができるように、と動き出したのが4月中旬でした。キットづくりには、学内のお父さんたちも力を貸してくれていて、今こうしてコロナ禍で会えないけれども、絆を感じる事ができたことは予想外の喜びです。手仕事キットはお陰様でたくさんの方にご利用いただいています。

かぞくの時間をどうぞ皆様、楽しくお過ごしてください。そして、またどこかでお会いできることを楽しみにしています。先日、敬愛するアーティストが「自作をすると自信がつく／未来は“自作をするのが最強の世界”」と発信していましたが、本当にそうなんじゃないかな！？と思う、今日この頃です。

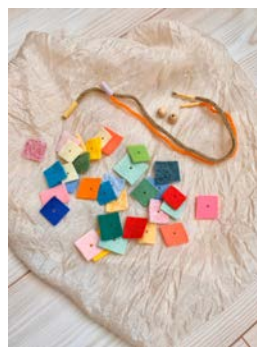
(学園公開グループ 8年生保護者 藤好千晶)

Yokohama Steiner School STORE <https://ysg-online.stores.jp/>

こどもといっしょのくらしかた <https://www.facebook.com/koikuysg/>



ヤシャブシでつくるミツバチ



水に浮かべて遊べる小人のヨット



いつものご飯がもっと美味しくなる♪  
マイ箸&箸置セット

# インフォメーション

～詳細やお申込方法については学園サイトをご覧ください～

## 2020年度入学説明会

【A】「シュタイナー教育とは」「教育内容について」

【B】「保護者の学園への関わりについて」

※A→Bの順で両方の回に必ずご出席ください。

参加費は無料です。

8/ 2 (日) 入学説明会 A (10:00～12:00)

9/ 9 (水) 入学説明会 A (17:00～19:00)

9/12 (土) 入学説明会 A (14:00～16:00)

9/16 (水) 入学説明会 B (17:00～19:00)

9/19 (土) 入学説明会 B (10:00～12:30)

9/20 (日) 入学説明会 A (14:00～16:00)

9/27 (日) 入学説明会 B (10:00～12:30)

\* 日程等の変更や中止の可能性があります。

最新情報は学園サイトでお知らせいたしますのでご確認ください。

## NPO 会員募集

横浜シュタイナー学園の活動趣旨に賛同し、活動への参加、支援を希望される方は、どなたでも NPO の会員になれます。会員は総会への参加の他、紀要冊子「野ばら」(年 1 回発行) とニュースレターをお送りします。また、学園主催の各種催しに会員価格で参加できます。また、賛助会員も同時に募集しております。

<入会申し込み> 詳細は学園事務局までお問い合わせください。

## SNS はじめました!

横浜シュタイナー学園 Facebook 公式ページと

Instagram 公式アカウントを開設しました。

FB

<https://www.facebook.com/steineryokohama>



Instagram

yokohamasteiner



ぜひ、フォロー、お友だちへのご紹介をお願い致します。

お問合せ、お申込み先

横浜シュタイナー学園事務局

Tel&Fax: 045-922-3107 e-mail: [gakuen-info@yokohama-steiner.jp](mailto:gakuen-info@yokohama-steiner.jp)

【会費・ご寄付等お振込先】

郵便振替: 00260-0-130702

加入者名: 特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園

ゆうちょ銀行: 店番 029 支店名 029 店 (セトキヨウ店) 当座 013702

学園サイトはこちらから



## 【公開行事中止のお知らせ】

新型コロナウイルス感染拡大防止の配慮から、一学期に予定していました公開行事はすべて中止とさせていただきます。

夏休み以降の公開行事につきましては、学園サイトでお知らせいたします。

## 【大人のオイリュトミーにつきまして】

2020年度大人のオイリュトミーの開催は見送ることになりました。

また、次年度以降の再開も現在は未定です。

決まり次第、学園サイトやニュースレター等でお知らせいたします。

## YSG メールマガジン配信中

公開講座やイベント開催など、学園のさまざまなトピックをメールでお知らせします。

ご希望の方は学園サイトよりご登録ください。

## ☆ 星の金貨より ☆

スクールショップ星の金貨では、子ども用・大人用のマスクを販売しています。生地は綿や麻の天然素材です。

平日の学園の開いている時でしたら、どなたでもお買い物いただけます。

お気軽にお立ち寄りください。

事務室にお声掛けください。

お問い合わせのメールアドレスが変更になりました。

[hoshino.kinka7@gmail.com](mailto:hoshino.kinka7@gmail.com)



横浜シュタイナー学園

～Newsletter 第 130 号～

2020年5月28日発行

編集: 広報の会

発行: NPO 法人 横浜シュタイナー学園

<https://yokohama-steiner.jp>

〒226-0016 横浜市緑区霧が丘3丁目1-20

TEL/FAX 045-922-3107

※ 掲載内容の無断転載をお断りします